

# 「万葉集」の大伴家持から「日本の金融王」安田善次郎まで富山にゆかりのある先人たちの業績を学ぶ

富山県にはふるさとのみならず、日本全体に影響を及ぼすほどの業績を残した先人が少なくありません。彼らはどのような夢や志を持ち、どのような人生を送ったのか？

偉人たちのゆかりの地を訪れ、その業績を学び、社会に貢献することの価値や夢・志を持つことの大切さなどを学びます。

とやまの偉人ゆかりの地を巡る

718 (養老2)年頃 ~785 (延暦4)年

とやまの景観を愛する心を歌に詠む

**大伴 家持**

大伴家持は奈良時代に国守(地方を治める長官)として越中国(現在の富山県と石川県能登半島)に赴任しました。歌人として有名な叔母(坂上郎女)から歌の手ほどきを受け、自身も一流の歌人であった家持は、国守として国内を視察するかわら、美しい越中の風景をたくさん歌に詠みました。家持が都に戻ったあとに編纂したとされる、日本最古の和歌集『万葉集』には4,516首が収められていますが、そのうちおよそ220首が、家持が越中で詠んだものです。現在、家持が政務をとった国庁跡にほど近い高岡市の二上山のふもとには、高岡市万葉歴史館があり、「ふるさとの万葉」をテーマに映像や音で立体的に構成された常設展や万葉植物を配した庭園などが楽しめます。

**【高岡市万葉歴史館】**  
〒933-0116 高岡市伏木一宮1-11-11  
☎(0766)44-5511 <http://www.manreki.com/>

- 開館時間 9:00~18:00(11月~3月は17:00まで)
- 休館日 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
- 入館料 大人210円、中学生以下無料
- アクセス 高岡北ICから車で15分



1154 (久寿元)年 ~1184 (寿永3)年

壮絶な生涯を駆け抜けた革命児

**木曾義仲と巴御前**

平安時代末期、平家の専横から政治・社会が混沌とするなか、1180年に後白河法皇が平家追討の命を下します。源氏の一族で、信濃国木曾谷(現長野県木曾郡)で育った源(木曾)義仲は、これを受けて挙兵し、富山県と石川県の県境にある倶利伽羅峠の戦いで平家の大軍を一夜で壊滅させて無血上洛を果たしました。義仲は源氏初の征夷大将軍に任じられますが、いとこである源義経らの軍に敗れ、31歳の若さで非業の死を遂げます。この義仲に付き従って共に闘い続けたのが女武者・巴御前。幼いころから義仲と一緒に育ち、一騎当千の兵(つわもの)であったと伝えられています。倶利伽羅峠の戦いでは、義仲は数百頭の牛の角に松明をくくりつけて敵陣に突進させるという奇策を用いて勝利したと伝えられています。

**【ゆかりの地】**  
小矢部市内には火牛の像や埴生護国八幡宮など戦いの記録が残っています。



1562 (永祿5)年 ~1614 (慶長19)年

高岡の産業の発展に注力

**前田 利長**

織田信長の有力な家臣として知られる前田利家の長男・前田利長は、関ヶ原の戦い後、加賀・越中・能登120万石を支配する大名となりました。1605(慶長10)年に隠居した利長は、越中新川郡の富山城に移り住みましたが、4年後、大火により富山城が焼失したのを機に、射水郡関野(現・高岡市)に新しい城と城下町を築きました。利長は、領内の産業振興に努め、各地で新田を開墾しました。また、瀬戸村(立山町)で陶器の製造を開始、高岡や井波の栓物師(薄い板を曲げ食器や日用品を作る職)を保護したほか、高岡の金屋に鋳物師(金属を鋳造する職人)を招き、高岡銅器の基礎を作りました。

**【国宝 高岡山瑞龍寺】**  
〒933-0863 高岡市関本町35  
☎(0766)22-0179 <http://www.zuiryuj.jp/>

- 拝観時間 9:00~16:30
- 拝観料 大人500円、中高生200円、小学生100円
- アクセス 高岡ICから車で20分
- 最寄り駅からのアクセス JR高岡駅南口から徒歩で10分

関本町にある国宝・瑞龍寺は、加賀藩三代当主利常が、利長の菩提を弔うために建立したものです。曹洞宗の名刹として知られる瑞龍寺は、加賀百万石の財力を示す壮大で典雅な江戸初期・禅宗の建造物群、仏殿・法堂・山門が国宝に指定されています。近くには高岡大仏や古い街並みもあり歴史を肌で感じることができます。




富山から羽ばたいた大商人

富山には、貧しい生い立ちから大成功をおさめ、一代で大商人となった人びとがいます。彼らの人生から、志を持つことや勤勉であることの大切さを学ぶことができます。

日本一の大商人を目指した

**安田善次郎**

1838(天保9)年、江戸時代の末期に富山藩の貧しい下級武士として生まれた安田善次郎は、国を動かす大商人になることを志し、19歳の時に上京しました。6年間の修行の後、25歳で独立した善次郎は、3年後に両替店「安田商店」を開店しました。明治時代になり、第三国立銀行、安田銀行を設立し、日本初の保険会社を作ったのも善次郎です。「日本の金融王」と呼ばれた善次郎は、多くの事業に資金を出資して、資産を社会に還元し、富山県の鉄道や学校建設などにも貢献をしたほか、東京の日比谷公会堂を寄付したり、東京帝国大学(東京大学)に講堂を寄付したりしました。



1848 (嘉永元)年 ~1930 (昭和5)年

九転び十起きの男

**浅野総一郎**

氷見市の医者の子に生まれた浅野総一郎は、医学の道には進まず大商人になることを志し、23歳で上京しました。東京で砂糖水や竹の皮の販売を手掛けた後、薪や炭など燃料の販売に進出し、成功を収めます。その後、国営深川セメント製造所の払い下げを受け、1898(明治31)年、「浅野セメント合資会社」を設立、事業は成功し、総一郎は「日本のセメント王」と呼ばれるようになりました。1913(大正2)年には東京湾埋め立て工事に着手、約14年の歳月をかけて京浜工業地帯の基となる埋め立て地を完成させました。また、故郷富山の発展のため、「高伏運河建設構想」、「庄川水力発電構想」などを発表、現在の伏木富山港の臨海工業地帯建設や小牧ダムの建設へとつながりました。

